

同調圧力が生む人権侵害

7/27/2023 全銀協・人権同和問題啓発講演会
佐藤 直樹 (評論家・九州工業大学名誉教授)
<https://www.satonaoki.com>

1. 「私には権利がある」が通用しない日本
 - ・「日本世間学会」の設立 (1999年) ⇒ 世間学の誕生
 - ・東日本大震災や新型コロナ禍における欧米との違い
 - ・「法のルール」 (欧米・日本) と「世間のルール」 (日本だけ)
 - ・同調圧力の強さ ⇒ 自殺率の高さと犯罪率の低さ
 - ・Ich habe Recht. (阿部謹也) ⇒ 「権利」「人権」が日常語ではない
2. 英語に訳せない「世間」という言葉
 - ・日本では、個人の集合体である社会はタテマエで「世間」がホンネ
 - ・「世間」は『万葉集』の時代から ⇒ 12世紀以前の欧州にも存在
 - ・個人 individual (1884年) / 社会 society (1877年) / 権利 right (1886年) ⇒ 輸入品
 - ・近代化 / 西欧化 ⇒ 科学・制度の輸入は成功したが、社会という人間関係の輸入に失敗
 - ・right 「権利=正しい」? ⇒ 人権意識の未定着
 - ┌ 社会 ⇒ 「バラバラの個人から成り立っていて、個人の結びつきが法律で定められ
 - └ ているような人的関係」 ⇒ 個人+法のルール
 - ┌ 「世間」 ⇒ 「日本人が集団になったときに発生する力学」 ⇒ 個人の不在 + 「世間」の
 - └ ルール ⇒ 会社も「世間」
3. 同調圧力を生み出す「世間」の四つの「謎ルール」

- ① 「お返し」ルール (「贈与・互酬の関係」) [⇐ 契約関係]
 - ・お中元、お歳暮、バレンタインデー / ホワイトデー (石村萬盛堂)
 - ・LINEの「既読スルー」、寄付・脳死移植の少なさ
 - 欧州 ⇒ キリスト教の浸透・12世紀ごろに消滅 (ルカ14章)
- ② 「先輩・後輩」ルール (「身分制」) [⇐ 法の下での平等]
 - ・I, you は一つ ⇒ 日本では身分によって多数の言葉
 - ・おじぎハンコ (加谷珪一) ⇒ 役職 (機能としての立場)
 - ・夫婦茶碗、森前JOC会長の女性蔑視発言、ジェンダーギャップ指数 ⇒ 125/146 位
 - ・日本企業の女性役員比率と企業業績に相関関係 (BCG 2017年)
- ③ 「出る杭は打たれる」ルール (「共通の時間意識」) [個人の時間意識]
 - (1) 個人の不在 ⇒ W・H・オーデン、「ハーバード白熱教室」 ⇒ ソーシャル・ディスタンス、karoshi が英語に、忖度 ⇒ ダイバーシティ (多様性) が育たない
 - (2) 人間平等主義 (中根千枝) ⇒ 「みんな同じ」という同調圧力
 - ・宝くじの当選者・ホールインワン保険 ⇒ 独特の「ねたみ」意識 ⇒ 犯罪抑止力
 - 欧州 ⇒ 12世紀以降都市化とキリスト教「告解」 ⇒ 個人、自己決定 (神との関係)
- ④ 「大安・友引」ルール (「呪術性」) [⇐ 合理性]
 - ・大安、友引、恵方巻き ・ 多神教 / 一神教 (創唱宗教、教祖・教典・教団)
 - ・犯罪 / 病 / 死 = ケガレ ⇒ コロナ感染者差別と犯罪抑止力
 - 欧州 ⇒ 「告解」で「贖罪規定書」によって邪教を否定

4. 同調圧力の肥大化と人権侵害
 - ① 「人に迷惑をかけるな」という「謎ルール」の存在
 - ・コロナ禍での「世間」の狂暴化 ⇒ 同調圧力の肥大化 (自粛警察・マスク警察・スマホの隣組化) ⇒ 「法のルール」違反ではないが「世間のルール」違反

- ・ 欧米⇒マスク着用「法のルール」による義務化
 - ②「出る杭は打たれる」ルールや「身分制」ルールの肥大化
- ・ ワクチンハラスメント⇒「意地悪な人が多く、自分が損をしてまで他人の足を引っ張る」(大阪大学社会経済研究所) / 「競争させるとうつつになる」(ベネディクト)
- ・ 電通の過労自殺(2015年)⇒「心理的安全性」の欠如
 - ③「世間」の復活・強化による同調圧力の肥大化
- ・ 同調圧力の肥大化⇒1998年が転回点⇒グローバリズム＝新自由主義⇒成果主義による競争⇒自殺者の激増
 - ┌ 工業社会(第二次産業)⇒均質な製品、決まった仕事を効率的に、同質的で従順。
 - └ ポスト工業社会(第三次産業)⇒イノベーションが成長の原動力・ダイバーシティ

5. 同調圧力をなくすためには

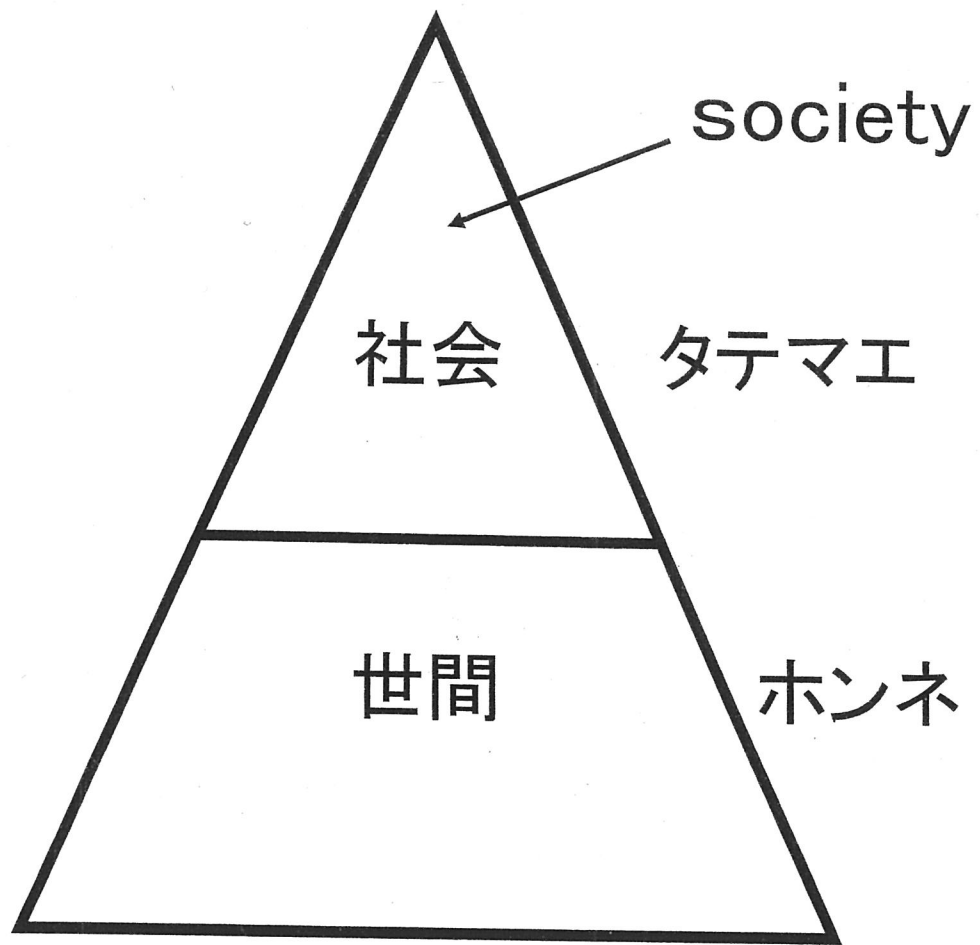
- ①「世間」のルール/社会(法のルール)の峻別⇒「謎ルール」を整理し廃止する
インディード「有識者会議」(2023年)⇒「謎ルールブック」
- ③SNS(ツイッター)匿名率75%⇒実名でも発信できる内容かどうか、立ち止まって考える⇒個人として考える⇒「空気は読んでも従わない」という小さな勇気

社会	世間
契約関係	贈与・互酬の関係
個人の平等	長幼の序
個々の時間意識をもつ	共通の時間意識をもつ
個人の集合体	個人の不在
変革が可能	変革は不可能
個人主義的	集団主義的
合理的な関係	非合理的・呪術的な関係
聖/俗の分離	聖/俗の融合
実質性の重視	儀式性の重視
平等性	排他性(ウチ/ソトの区別)
非権力性	権力性

「社会」と「世間」の比較 (佐藤直樹著『「世間」の現象学』青弓社より)

[参考図書]

- ・ 阿部謹也『「世間」とは何か』『教養とは何か』(講談社現代新書)『ヨーロッパを読む』(石風社)『近代化と世間』(朝日新書)『「世間」論序説』(朝日選書)
- ・ 太田肇『同調圧力の正体』(PHP新書)
- ・ 岡檀『生き心地の良い町』(講談社)
- ・ 加谷珪一『国民の底意地の悪さが、日本経済低迷の元凶』(幻冬舎新書)
- ・ 鴻上尚史『「空気」と「世間」』『不死身の特攻兵』(講談社現代新書)『「空気」を読んでも従わない』(岩波ジュニア新書)『何とかならない時代の幸福論』(ブレイディみかことの共著、朝日新聞出版)『世間ってなんだ』(講談社+α新書)
- ・ 佐藤直樹『「世間」の現象学』『犯罪の世間学』(青弓社)『世間の目』(光文社)『暴走する「世間」』(バジリコ)『暴走する「世間」で生きのびるためのお作法』(講談社+α新書)『なぜ日本人はとりあえず謝るのか』(PHP新書)『なぜ日本人は世間と寝たがるのか』(春秋社)『目くら社会の人間関係』(講談社+α新書)『加害者家族バッシング』『なぜ、自粛警察は日本だけなのか』(現代書館)『同調圧力』(鴻上尚史との共著、講談社現代新書)
- ・ 中根千枝『タテ社会の人間関係』(講談社現代新書)
- ・ ルース・ベネディクト(長谷川松治訳)『菊と刀』(講談社学術文庫)
- ・ C・モリス(吉田暁訳)『個人の発見』(日本基督教団出版局)



(図 A)